

特別支援学級 実践事例

校種(教室の種別)	小学校 (自閉症・情緒障がい特別支援学級)	本事例の教科等名	自立活動
在籍児童生徒の実態	<p>1年1名、2年5名 計 6名</p> <p>本事例対象児童A児(診断名:多動症、情緒障がい、自閉スペクトラム症)は、書くことを極度に嫌がり、なぞることやシールに文字を書いたものを貼る方法などでプリント学習を中心に行っている。他の子と同じ学習をすることができない。学習は45分中10分程度することができる。</p> <p>行動の切り替えが難しく、興味があることは、静かに長時間取り組むことができる。目を見て話すことができない。友達によくちよっかいを出してトラブルになることが多々ある。</p>	目標 指導内容	<p>【目標】</p> <p>生活に見通しを持って、自分で決めた時間まで課題を行う。</p> <p>【関連する内容】</p> <p>1 健康の保持(1)、2 心理的な安定(1)(2)(3)、3 人間関係の形成(3)</p>
指導の経過・工夫点・子供の変容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>あいさつすることを意識づけさせる。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>やるべきことをリスト化し、チェックをさせる。</p> </div> </div> <p>視覚的にも時間がわかるように時計の絵をつけている。</p> <p>指導・支援の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝、A児にスケジュールを渡し、半分近くは交流学級で活動するように促しながら、交流学級で何分、特別支援学級で何分、活動するかを決める。 ・国語、算数では個人の課題を終えた後に何をするかをあらかじめ決めておき、課題が終わり次第、決めておいた内容で過ごす。 ・計画は立てるが本人が難しいと感じた場合は、自ら担任に「教室に行く時間を短くしたい。」と言うようにしている。 ・終わった活動は線を引き、視覚的にも達成した感覚を持ってもらう。 		

	<p>児童の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月から7月は、学習をしたい時や声かけを続けなければ学習に取り組むことができなかった。また、学習を始めても、自分のしたいことや周りが気になってすぐに学習を中断する姿が見られた。 ・ 9月からスケジュールを使った支援をはじめたが、当初は慣れてないため、スケジュール通りに活動することが少なかった。しかし、3週間ほどで要領をつかみ、終わった活動には自分で線を引いて自主的に取り組むようになった。 ・ 学習時間も自分で決めていることから、最後まで取り組もうとする姿が見られた。
<p>成果と課題・今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○細かくスケジュールを管理することで、活動に見通しを持ちやすくなり、以前に比べて積極的に学習に参加できるようになった。 ○切り替えが難しい児童であったが、時間を決めていることから次の活動へ切り替える時間が短くなった。 ○見通しが持てることから、不安が軽減してイライラすることが少なくなった。 ▲細かくスケジュール管理をしているため、それ以外の行動がしにくくなった。 ▲見通しを持った行動はできるが、急な変更があった時に A 児が調子を崩す可能性がある（「スケジュールに書いてないことをしたくない」等）。 <p>現在は細かく管理しているため、慣れてスムーズに行動ができるようになったら今後は、大まかなスケジュールリングにしていきたい。</p>